

中央区文化・国際交流振興協会だより



「銀座6-8交詢社」(1990年) 小川幸治 中央区立郷土天文館所蔵

● 特集 ●

江戸べっ甲と粋な和装小物の魅力

銀座かなめ屋・かんざし和装小物展示館
株式会社かなめ屋柴田 代表取締役社長

柴田 光治

みんなをつなぐ「やさしい日本語」

明海大学外国語学部日本語学科 准教授

西川 寛之

■ 令和元年度の事業報告と決算

■ 第13回中央区まるごとミュージアム 2020



江戸べっ甲と 粋な和装小物の魅力

～かんざしと髪飾りの違いって～

銀座かなめ屋・かんざし和装小物展示館
株式会社かなめ屋柴田 代表取締役社長

柴田 光治



日本橋公会堂（集会室）での講演

令和2年9月に2回にわたり開催した文化講座「まちかど展示館に学ぶ『人に話したくなる！中央区の歴史文化と技』」では、その2回目に着物に必要な小物を通じ和装文化を支え続ける銀座の老舗の三代目店主でいらっしゃる柴田光治氏をお招きし、「江戸べっ甲と粋な和装小物の魅力」と題して講演していただきました。大変好評でありましたので、このたび講演に関連した内容について寄稿していただきました。

柴田 光治（しばた こうじ）



1934年（昭和9年）創業の和装小物専門店の三代目
高校時代まで日本橋蛸殻町で育ち、大学卒業後に留学で渡米
帰国してからは、一般企業に就職をした後に家業を継ぐ。
現在は、さまざまなソーシャルメディアを通じ、希少なべっ甲かんざしや失われつつある日本の伝統工芸、和装小物の世界を世の中に発信している。

●銀座かなめ屋・かんざし和装小物展示館

東京都中央区銀座8-7-18（見番通り）

☎03-3571-1715

<https://www.kanameya.co.jp/>

月～土曜日（祝日・年末年始等を除く。）

平日/11:00～20:30 土曜日/12:00～19:00

東京メトロ銀座駅B3番出口徒歩5分

JR新橋駅銀座口徒歩3分

●中央区まちかど展示館 ウェブサイト

<https://www.chuoku-machikadotenjikan.jp/>

中央区銀座八丁目の見番通りで、べっ甲かんざしをはじめとする和装小物一式を取り揃える専門店を営む、1934年創業「銀座かなめ屋」三代目店主の柴田光治と申します。

キモノと和装小物

コロナ禍前、銀座に多く訪れていた外国人観光客が弊店に通り着き、よくこんなことを尋ねられました。「なぜ日本を代表する商業地GINZAに、こうした日本的なSHOPがない？メインストリートを歩いている、世界中どこにでもあるブランドショップばかり。あなただってそうでしょう？異国の地を訪れたら、その国の文化が垣間見られるショップを訪れたり伝統に触れたりしたいでしょう？」

よく私の父が、自国の民族衣装を自分ひとりで着ることが出来ない国は、世界的に見ても少数だと嘆いています。キモノはいつの間にか日常着から、一生のうちに数回、七五三や成人式、結婚式などの儀式で着る「特別な衣裳」となっていました。当然これでは、自分でキモノを着られるようになる筈がありません。

さらに近年では、そうしたキモノは購入ではなくレンタルが主流になり、あわせて和装肌着から草履、バッグ、帯締め、帯揚げ、末広、かんざしなどの装身具一式に至るまでレンタル。キモノや帯の年間購入数は1975年前後をピークに、2013年ではその1/6まで落ち込み、今日に至るまで減少し続けています。

これが今の和装の現状、ひいては日本の伝統文化、工芸を取り巻く大変厳しい現状を物語っています。当然購入する機会が減れば弊社のような専門店が減り、またモノが動かなければモノづくりは必然的に停止します。その結果そうしたモノ作りに携わる企業や職人たちが減少の一途を辿っています。

如何でしょうか？今の時代、語学力もパソコンも大切ですが、せめて浴衣ぐらい自分一人で着られるよう義務教育の過程に着付けの授業を取り入れることは。

かんざしの歴史

日本におけるかんざしの始まりは、縄文時代まで遡ります。その頃の古代日本では、一本の細い棒に呪力が宿ると信じられており、それを髪に挿すことで霊力を高め、魔を払うことができると考えられていたと言われています。

古の時代、ふ/巫/巫覡（神を祀り神に仕え、神意を世俗の人々に伝えることを役割とする人々）などが祭祀（儀式）の際に、髪に挿した一本の木をアンテナの如く用いて周囲の精霊を呼び集め、自身の霊力を高めて様々な儀式に臨んでいたのでしょう。

日本語の「かんざし」の語源として、「髪挿し」。いにしえの人々が神を招く際に頭に草花を飾ったことが起源であるという説があります。

奈良時代に入り中国大陸からの文化、特に唐の時代の大陸様式（文化）が流入、強く影響を及ぼし服装や飾りにも次第に反映されていきました。

しかし、平安時代に入りかんざしは受難のときを迎えます。女性はみな自然の垂髪にし、黒髪そのものの美しさを求め髪に装身具を飾ることはなくなりました。

安土桃山時代から江戸時代初期、髪型の変化と共に再びかんざしにも脚光が集まり始め、江戸時代中期に入り髪型のさらなる変化と共に、かんざしの形状も多種多様化が一気に進み、現代でも目にする事が出来る、玉かんざし、平打ち、びらかんざしなどが生まれたと言われています。



べっ甲かんざし



古代文字「簪（かんざし）」

かんざしを挿した人の髪の中のにもぐりこむ簪の象形文字。竹製が多かったため竹冠、下に「日」（人間の言動を表す記号）を添えて。元々男女とも儀礼の際に使用

素材も木製のものから、象牙、馬爪、鯨、動物の骨、ガラス、ごく僅かながらべつ甲などバラエティーに富み、装飾技法も、漆、蒔絵、螺鈿、象嵌など様々な技法が施されるようになりました。

1687年ごろから流行しだしたとされるべつ甲の櫛も大変高価であったことから、封権社会の時代を反映して、まだごく一部の上流階級（武家階級）のみが許されたと言われてい

ます。最高級の遊女である太夫クラスでは、べつ甲製の櫛3枚に、簪、笄をあわせて20本ものかんざしを挿し、「首から上の価値は家一軒」などと言われ、現代でもわずかに残る総白べつ甲製の花嫁用かんざし一揃えともなると、蔵がひとつ建つと言われてい

ます。江戸時代後期に入り戦もなく太平の世が長く続いていたころ、商業中心の世の中になり商家は富み、庶民でも様々な娯楽品を手に入れるようになります。その結果べつ甲製の櫛やかんざしを髪に飾る女性も徐々に増えていき、べつ甲の加工技術が最も開花した時代と言われてい

ます。明治以降、洋髪の流行から簪も西洋の形のものへと変化。現在多く目にする2本足の三味線のバチのような形状をしたかんざしは、西洋風のもの



螺鈿紫檀五弦琵琶

瑛瑠装牙櫛

江戸時代に入り、べつ甲は次第に装飾品としてもはやされ、日本独自の高度な加工技術が次々と生み出されていきました。当時、長崎では日本を訪れる外国人たちへ土産品として、べつ甲を用いた装飾品や調度品が大いに珍重されたと

いいます。江戸中期になると、江戸でもべつ甲は女性のかんざしなどの装身具として大いに流行し、次第に長崎からべつ甲職人が移り住み、長崎べつ甲の技術が江戸にも伝えられ、櫛やかんざしなどの製作が盛んになり、より複雑な造形が出来るようになっていきました。これが現代の江戸べつ甲の元になったと

いわれています。ところで、べつ甲はなぜ瑛瑠（タイマイ）と書かず、鼈甲（べつこう）と書くのでしょうか。亀は鶴とともに長寿のしるしとしてめでたいものとされ、美しいべつ甲かんざしや櫛などが各地の大名に愛用されてい

ました。しかし、江戸時代に幾度となく襲った飢饉に際し、幕府は高価なべつ甲は「奢侈禁止令」による取締りの対象となりました。その頃の逸話として、ある藩主が婚礼に際し「是非ともタイマイ製品は必要である」とし、幕府に対して「タイマイは唐より渡来した高価品であるが、わが日本内地の亀の甲で作る品は差し支えなきや」と苦肉の上申を行い、「鼈甲（すっぽんのこう）で作る品ならば一向に差し支えなし」と許可を得ました。以来、瑛瑠の名称は鼈甲に改称されたと

いわれています。江戸時代初期までは見かけなかった先端に耳かきの付いたかんざしも、耳かきを付けることで実用品として取締りから逃れる理由としたという説もあ

べつ甲とは

べつ甲とはウミガメの一種、瑛瑠（現在はワシントン条約により国際取引が制限）の甲羅を材料とする天然素材です。大西洋、カリブ海（キューバ）、インド洋の赤道付近に多く生息。近年は温暖化の影響もあり日本近海でも目撃されてい

ます。元々瑛瑠の肉は地元住民の貴重なタンパク源として食用として捕獲され、残された甲羅はべつ甲という外貨獲得の要でした。当時キューバは日本との取引だけでも年間2億円の収入があったと

いわれています。べつ甲は、やや黄色みがかった透き通る「白べつ甲」、黒光りする「黒べつ甲」、そしてそれらが交じり合いましたら模様となった「炭布べつ甲」の3つに分けられます。中でも白べつ甲は甲羅全体のわずか10%程度と大変貴重なことから特に珍重されてい

ます。べつ甲は天然素材故、材料の厚みも1cm以上あるものから1mm程度のもまで様々。製品化する上である程度の厚みを作るため、べつ甲の膠の性質を用いて、「水」と「熱」により何層にも重ね合わせ成形していきます。そのため、万が一破損しても再び「水」と「熱」により継ぎ直すことが可能。さらに経年による小傷や曇りも、磨けばほぼ半永久的にべつ甲本来の美しい輝きが蘇ることからまさに一生もの。また、べつ甲の製造過程では一切の科学物質を使用せず、最後は土に帰ることから、ある意味地球にやさしいエコロジカルな素材ともいえます。

べつ甲の歴史

べつ甲が最初に日本に伝わったのは、604年の飛鳥時代、中国からもたらされたという装飾の一部にべつ甲を用いた「瑛瑠杖」や「螺鈿紫檀五弦琵琶」などが、奈良の東大寺正倉院に収蔵。また、903年の平安時代に伝わったとされる、象牙の櫛にべつ甲の装飾を施した「瑛瑠装牙櫛」が、大阪府の道明寺天満宮に国宝として収蔵されてい

ます。安土桃山時代にべつ甲材料と基礎的な製造技術がシルクロードを経て長崎に伝わりました。よって、日本におけるべつ甲の発祥の地は長崎になります。

近年のべつ甲

- 1982年2月「江戸べつ甲」が東京都の伝統工芸品に指定
- 1992年12月 べつ甲の輸出入完全停止
- 2015年6月「江戸べつ甲」が国の伝統的工芸品に指定
- 2017年1月「長崎べつ甲」が国の伝統的工芸品に指定

最後に

縄文時代まで遡る日本の神秘的な伝統的装身具、かんざし。また、江戸時代から数百年以上の時を経て今日まで大切に伝承されてきたべつ甲。いずれも世界にも誇れる日本のかけがえない宝です。失われつつある日本の伝統文化、工芸品をどうしたら後世へと残してゆくことが出来るのか。この20年あまり日々模索し続けてい

ます。まだ答えは見つかりませんが、それでもこの10年あまり心掛けてい

ることがあります。それは、その商品のストーリーを語ること。そのモノの価値をなるべく分かりやすく言語化し、SNSなどを駆使して一人でも多くの方へ発信していくこと。その情報が「ホンモノを求める消費者」に辿り着き、ご興味を示してくださればお買い上げにも繋が

り、当然モノが売れば「小売店」は喜び、そして何よりも「職人」へ新たなモノづくりを発注することができます。まさに三方良しのWin, Win, Winの好循環が生み出されま

みんなをつなぐ 「やさしい日本語」

「やさしい」って何だろう？
ツール・技法を学ぶ前に考えてみよう！

新型コロナウイルスの流行で、この3月から半年以上にわたり CCIEA 日本語教室は休止となりました。そこで、この間を利用して、日本語ボランティアを対象とするオンライン講座を6～7月に開催しました。その中で、西川寛之先生からの「やさしい日本語」のお話は大変好評でしたので、改めて見識を深めるため、講義内容を充実させて寄稿いただきました。

“外国人”に向けた言葉として「やさしい日本語」に注目が集まっています。区役所や駅などでは既に使われていますが、まだ広く知られているとは言えません。国際化の進んだ現代社会に必要とされている「やさしい日本語」について、いつ、どうしてできたのか、どのような日本語なのかという順で説明したいと思います。

*本稿の“外国人”は日本語が苦手な人という意味です。

「やさしい」は、どうしてひらがなのか？

まず、「やさしい日本語」という言葉についてです。「やさしい」を漢字にするとどう書くのでしょうか。「易しい」でしょうか。それとも「優しい」でしょうか。実はこの2つを含むという意味で、あえてひらがなで「やさしい」としています。本稿では、この点にも触れながら説明を進めます。

いつ「やさしい日本語」ができたのか？

「やさしい日本語」は、日本語が母語（日本語ネイティブ）ではない人に向けて分かりやすくした日本語です。まずはやさしい日本語という考えが生まれた背景から見てみましょう。

「やさしい日本語」ができるきっかけとなったのは、1995年の阪神淡路大震災です。予想だにしない出来事が次々と発生しました。

地震の揺れによる建物の倒壊、ライフラインの寸断、そして火災。被災者には、休む場所、水や食べ物の確保のための情報が欠かせません。「いつ、どこに行けば水が得られるのか」、「今すぐ受け入れてくれる避難所はどこにあるのか」等、支援を受けるための情報は、テレビやラジオからではなく、被災地内の役所等からの広報車、防災行政無線が頼りです。

被災地には日本で暮らす外国人もいます。当時は外国人に向けて、水や食料、避難場所等の情報を何語で伝えるのが問題になりました。この時の経験を通して「やさしい日本語」という考え方が生まれました。

だれがやさしい日本語を求めたのか？

日本で暮らす外国人に向けた情報が必要なことは、もちろん1995年にも認識されていました。

外国人に向けて英語による情報発信もありました。情報を届ける側も震災の被害を受けている中での対応です。情



明海大学外国語学部日本語学科
准教授 西川寛之

報を出すだけでも大変だったことでしょう。

これに対して外国人の方々から次のような声が聞かれました。「英語で言われても意味が分からない」「私たちは日本で生活しているのだからある程度の日本語はわかる」。つまり、「英語ではなく日本語で情報を」という声が上がったのです。

この声から、通訳、翻訳の他に「ある程度の日本語」で伝えることの必要性が認識され、やさしい日本語で伝えようという考え方が生まれました。

どうして、英語じゃなく日本語なのか？

「英語ではなく日本語で」という声が上がった理由の1つは、特定の外国語に頼りすぎたことです。

世界で話されている言語の数は3000とも6000とも言われます。一方、国の数は、国連加盟国を例に数えても200未満です。計算するまでもなく、1つの国の中で複数の言語が使われている国が多いことがわかります。

「日本語」は国の名前「日本」に「語」をつけたものなので、1つの国に1つの言語というイメージを持つ人もいます。しかし、世界を見ると、同じ国で暮らす人でも、それぞれ異なる言語で生活しているというのは珍しいことではありません。そういう国・地域では公用語が必要になります。言語による不平等が起らないように、情報を全国民に等しく伝えるためです。

公用語で情報を伝えるというのは、公用語の中から1つの言語を使えばいいのではなく、伝える情報をすべての公用語に訳して伝えるという意味です。国連の公用語等もこの形です。

ちなみに、日本においては、憲法や法律で公用語の明確な規定はなく、慣例として日本語が用いられています。

日本に暮らす外国人に何語で伝えればいいのか？

現在の日本においては公用語の指定はありませんので、ここで、外国人に何語で対応すればいいのかを考えてみましょう。参考として、日本に住む外国人の出身地に関するデータをご紹介します。「在留外国人統計」の2019年12月現在、国籍別上位3か国は順に、中国813,675人、韓国446,364人、ベトナム411,968人、となっています。

中国語や韓国語、ベトナム語等、情報発信の言語を増やすという対応も行なわれています。現在、観光案内や交通機関の案内などでも複数の言語による案内が増えてきています。実情に即した適切な対応です。しかし作成の準備

に時間が取れるパンフレット等であっても、現実的には世界中の3000以上もある言語に訳せるわけではありません。作成や印刷にかかる労力やコストにも限界があります。緊急時などは時間的制約からさらに対応が難しくなります。この解決策として、やさしい日本語が活用されています。

「ある程度の日本語」とは？

「国際語」と「ネイティブの言葉」をキーワードにして「やさしい日本語」の姿をイメージしてみましょう。

まず、ネイティブの言葉ですが、仕事や学校など毎日の生活の中で使っている言葉です。英語ネイティブの言葉や日本語ネイティブの言葉は、それぞれの地域社会に根付いた言葉です。これに対して、本稿で言う「国際語」は情報の伝達を中心にした言葉です。

国際語の例は、海外旅行で訪れる空港やホテル、国際会議、インターネット上での英語が挙げられます。ここでの英語は、細かなニュアンスよりも情報の伝達を重視した共通語です。本稿ではこのような言語を国際語と呼びます。国際語を使う場面では、話をする側も聞く側も互いに「相手が外国人である」という前提でコミュニケーションをします。

「やさしい日本語」はこの国際語としての側面があります。具体的なイメージを持つために、1つだけ、英語の例を紹介します。

「ここは禁煙です」の英語訳に“Smoking is prohibited in this area.”という表現があります。この中の“prohibited”という単語は、英語ネイティブが使うとしても国際語としての英語では好まれません。この言葉を避けて“Smoking is not allowed in this area”と、“not allowed”という言葉に置き換えます。

日本の空港やデパート、新幹線等のアナウンスでも昔は“prohibited”が使われていましたが、近年は“not allowed”が使われています。国際語とするために易しい(簡単な)単語として、not allowed (許される + 否定 = 禁止)という表現に置き換えられています。

「ある程度の日本語」という表現で求められたのは、このような国際語としての日本語なのです。漢字で書くなら「易しい日本語」です。

やさしい日本語を使うには？

「やさしい日本語」は、「言い換え」と「配慮」があれば今すぐにみなさんが使えるものです。冒頭で書いた「やさしい日本語」の漢字表記を使うと、言い換えを使うことで「易しい日本語」、配慮することで「優しい日本語」となります。

「高さ4メートルの津波が来るという警報が出ています。浸水の可能性のないところへ避難してください。」という表現を例にやさしい日本語を考えてみます。

「言い換え」には、言葉の置き換えと文の作り替えがあります。

言葉の置き換えでは、日常生活に出てこない「津波」等の言葉を生活で使う言葉に置き換えて、「大きい波」とします。「浸水の可能性のないところ」の言い換えでは、「高いところ」「4階建て以上のビルの上」等の表現への置き換えが考えられます。

上の警報の例には含まれていない表現ですが、注意喚起で使われる「～ましょう」(「地震の時は机の下に隠れま

しょう」等)も置き換えが望ましい表現です。「遊びましょう」「食事に行きましょう」等の誘いの表現にも使わ

れる表現なので、指示ではなく誘いと誤解される可能性があるからです。指示の場合は「～ください」と言い換えます。

文の作り替えのポイントは2つで、1文を短くすることと、接続詞「だから」「そして」等を挿入することです。

「薬を飲んで寝た。」という文では、「薬を飲んだ。だから寝た。」という意味かもしれないし、「薬を飲んだ。その後、寝た。」という意味かもしれません。「飲んで寝た」を2つの文に分けて、文と文の間を分かりやすく接続詞でつなぐことで、曖昧になることを回避します。

つぎは「配慮」です。

1つは、情報の明確化です。緊急時には、情報の優先順位を考えることです。「4メートルの津波」という警報の内容よりも、「高いところへ避難」というのが相手にとって重要な情報です。つまり、「逃げてください」「高いところに行ってください」のような端的な表現が、緊急時のやさしい日本語ということになります。

情報の明確化は、緊急時以外の場面でも必要です。皆さんは、「近いうちに連絡します」と言われたら、いつ連絡が来ると思えますか? 「近いうち」という言葉の意味を、私たち(日本語ネイティブ)は、自身が属す社会の常識や発言者との関係を基に類推します。これがネイティブの言葉です。「国際語」として使うには、類推しなくてもいいように工夫をします。時間に関わる言葉は日付や時間を数字で示すようにします。せめて「次の日曜日までに」のように、できるだけ具体的に情報の提示をします。

配慮の2つ目は受入側の態度や気持ちです。やさしい日本語の存在を許容することができれば、やさしい日本語の使い手になることができます。

やさしい日本語は国際語として情報を伝えるのにはいいのですが、細かなニュアンスを伝えるのには向いていません。分かりやすく言い換えをした表現なので、ネイティブの日本語と比べると不自然な表現も出てきます。そこで、これを許容する態度が求められます。たとえ幼稚に聞こえる表現であっても、そのことで見下したり馬鹿にしたりすることなく、人として対等なコミュニケーションをしてください。

「やさしい」が「優しい」となるかどうかは、本稿を読んでいる皆さん(受入れ側)の対応にかかっています。

みんなが楽しく暮らすためにも、ぜひみなさんの力で、「易しく優しい日本語」に、育ててください。

やさしい日本語に必要な「言い換え」と「配慮」

- 「言い換え」
津波 → 大きい波
浸水の可能性のないところ → 高いところ
- 「配慮」
 1. 情報の明確化
4 Mの津波 → 高いところに行ってください
高いビルの上へ逃げてください。
 2. 受入れ側の態度や気持ち



西川 寛之 (にしかわ ひろゆき)

博士号(応用言語学) 1993年に日本語ボランティアの活動を経験し、日本語教師を目指す。その後、関西、関東の日本語学校を経て、現在明海大学外国語学部および別科日本語研修課程に所属。地域社会や職場における日本語について研究を行っている。

令和元年度の事業報告と決算

令和元年度事業報告

令和2年7月15日(水)に開催された第1回理事会において、令和元年度の事業報告及び収支決算が審議され、承認されました。その概要を報告します。

I 文化振興事業

(1) 機関誌の発行

「中央区文化・国際交流振興協会だより」を発行しました。

発行部数等 5,500部 A4判 8ページ
発行回数 年2回(令和元年7月—第71号、同年12月—第72号)

(2) ホームページの運営

スマートフォンにも対応できる協会ホームページを適宜更新して、協会の概要をはじめ、事業内容やイベント案内等の最新情報を提供し、協会に対する理解と参加の促進を図りました。

URL: <https://www.chuo-ci.jp/>

また、twitterやfacebookを利用して情報発信も行いました。

(3) コンサートの開催

親しみやすい音楽鑑賞の機会を提供しました。

日時 令和元年9月6日(金)
午後6時45分開演
会場 日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
内容 上妻宏光コンサート2019
出演者 上妻 宏光、野崎 洋一
入場者数 350名
参加費 2,000円



(4) 文化講座の開催

漆をテーマに製法などの基本的な知識や受け継がれる職人の技、「日常を彩る美」としての漆の魅力について、専門家から話を聞き、理解を深める連続講座「世界に誇る日本の漆文化を学ぶ」を開催しました。

第一回

日時 令和元年9月5日(木)
午後6時45分開演
内容 「漆が創る日本の未来」
及び講師 公益社団法人 日展 理事
東京藝術大学学参・名誉教授
三田村 有純



第二回

日時 令和元年9月19日(木)
午後6時45分開演
内容 「伝統素材「漆」を現代に活かす」
及び講師 株式会社 佐藤喜代松商店
代表 佐藤 貴彦

会場 日本橋公会堂第3・4洋室

参加者数 延119名

参加費 無料

(5) 特別文化講演会の開催

各展覧会に関連した講演会(入場無料)を、NHKとの共催により年3回開催し、区民等の文化意識の向上を図りました。

①特別展「国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅」 関連文化講演会

日時 平成31年4月10日(水)
午後6時50分開演
会場 日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
講師 東京国立博物館 研究員
西本 政統

参加者数 407名

②国立西洋美術館開館60周年記念 「松方コレクション展」関連文化講演会

日時 令和元年7月30日(火)
午後6時50分開演
会場 日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
講師 国立西洋美術館 主任研究員
陳岡 めぐみ

参加者数 397名

③日本書紀成立1300年特別展「出雲と大和」 関連文化講演会

日時 令和2年1月21日(火)
午後6時50分開演
会場 日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
講師 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館指導学芸員 鶴見 泰寿

参加者数 391名

(6) 古典芸能鑑賞会の開催

中央区に深い関わりを持つ古典芸能を鑑賞する機会を提供することで、由緒ある伝統文化に対する愛着心を育み、その継承・普及を図りました。企画・制作は、「中央区古典芸能の会」に委託しました。



日時 令和元年6月22日(土)
午後5時開演
会場 日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
内容 講話 「日本橋幕末維新秘話」
舞踊 常磐津「菖蒲売り」
演奏 長唄「勸進帳」
講談 「瓢箪屋裁き」
舞踊 長唄「操り三番叟」

入場者数 374名

参加費 2,000円(中学生以下 1,000円)

(7) 文化推進事業助成

区内文化活動をさらに促進していくために、区民等による文化活動等に対し、その経費の一部を助成するとともに、後援を行いました。

(助成)

①文化創造・発信事業助成

助成金額:当該事業の対象経費の9/10の範囲内(上限200万円)

助成件数:ア 令和元年度助成件数(平成30年度決定):5件

イ 令和2年度助成予定件数(令和元年度決定):4件

②文化団体活動助成

助成金額:当該団体活動の対象経費の1/2の範囲内(上限40万円)

助成件数:ア 令和元年度助成件数(平成30年度決定):3件

イ 令和2年度助成予定件数(平成元年度決定):3件

③文化推進事業助成

助成金額:当該事業の対象経費の1/2の範囲内(上限10万円)

助成件数:3件

(後援)

後援件数:13件

(8) 中央区まるごとミュージアムの開催

文化・芸術の秋の一日、無料のバスや船で区内を回遊しながら本区のさまざまな文化的魅力を体験できる第12回「中央区まるごとミュージアム2019」を中央区との共催で実施しました。

日時 令和元年11月4日(月・休)
午前9時~午後5時

場所 中央区全域

実施結果

・バス乗車人数(区内巡回、都営バス借上げ。江戸バス無料) 合計6,099名

・乗船人数(日本橋周遊、浜町~晴海、明石町水辺ライン周遊、日本橋~晴海の4コース) 合計5,282名

・イベント事業数 48事業及び3協賛事業等
・イベント参加者数 延73,000名

(9) 文化振興プロデュースチーム

「中央区文化振興プラン」の提言(平成20年3月中央区文化振興懇談会提言)に基づき、中央区と協会が協力して区民(企業、NPO等を含む。)の自主的な文化活動の推進・拡大を図るため、平成20年度に文化への関心が高い専門家等からなるプロデュースチーム(構成員6名)を設置しました。

令和元年度は、区内全体の文化事業の推進について協議するとともに、まるごとミュージアム2019の事業者連絡会に出席し意見を述べていただきました。

II 国際交流振興事業

(1) 国際交流のつどいの開催

外国人と日本人との交流を推進するため、協会登録ボランティアが主体となり、日本と外国の伝統文化の紹介や体験に加え、踊りや料理の紹介を通して相互の親交を深めました。



日時 令和元年11月16日(土)

会場 築地社会教育会館
内容

- 伝統文化体験コーナー(着付け、茶道、生け花、墨絵、風呂敷の使い方、和太鼓ワークショップ、折り紙)
- 懇談コーナー(スペイン料理「トルテージャ」、日本の料理「けんちん汁」、スリランカミルクティー)
- 国際交流サロン(長唄三味線の演奏と体験、凧作り教室、国際交流サロンの紹介)
- 防災コーナー(防災パネル展示、備蓄食料の試食)
- サリーの着付け
- 日本の遊び・海外の遊び(将棋などの日本の伝統的な遊びとカーレットなどの海外の遊びを紹介)
- 踊りのコーナー(江戸太神楽、サルサ、盆踊り)

参加者数 426名(外国人102名、日本人156名、ボランティア161名、事務局7名)

参加費 無料

(2) 国際交流サロンの開催

区内在住・在勤の外国人と日本人が、日本の文化等を体験できるイベントを通じて交流を楽しめる場を提供するため、ボランティアの協力を得て「国際交流サロン」を月1回(11月及び3月を除く。)開催しました。

会場 協会講習室他
内容 こんなときどうする?(生活安全等)、和菓子づくり、ポッチャ体験、ヨーグルトのひみつ、盆踊り、歌舞伎のおもちゃ箱、焼きそばづくり、茶道体験、コーヒーで交流、防災訓練

※3月28日(土)予定の「浜離宮庭園でのお花見」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

実施回数 10回

参加者数 外国人延116名、日本人延103名、ボランティア延73名

参加費 無料



(3) 日本語教室

日本語でのコミュニケーションが困難な区内在住・在勤の外国人を対象に、協会の日本語ボランティアによる語学の指導及び学習者と指導者の相互理解を深める場として、通年で教室を運営しました。また、教室参加希望者の増加や多様化する要望に対応するため、ボランティア主催の教室に対して、助成金の交付や後援名義の使用、学習者紹介等の支援を行いました。



(4) 日本語指導者養成講座の開催

日本語教室受講希望者の増加に対応するとともに、協会主催教室やボランティア主催教室の充実を図るため、ボランティア指導者を養成する協会独自の日本語指導者養成講座を開催しました。

期間 令和元年6月～9月 22回(44時間)
受講者数 23名(第19期生)
講師 明海大学外国語学部日本語学科 准教授 西川 寛之
会場 協会講習室、新富区民館
参加費 無料



(5) 日本語ステップアップ講座の開催

各教室で活動する日本語指導者の学習需要に対応するとともに、指導力・技法のレベルアップを図るため、ステップアップ講座を開催しました。

期間 令和元年5月～令和2年1月 6回(12時間)
 ※2月28日(金) 予定の7回目は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止
受講者数 延106名
講師 公益社団法人 国際日本語普及協会へ講師派遣を委託
会場 協会講習室
参加費 無料

(6) ボランティア活動支援

日本語教室の日本語指導者をはじめとする各種の協会登録ボランティアの活動を支援するとともに、中央区から要請を受け、区事業実施時に協会登録の通訳ボランティアを派遣しました。

なお、協会登録ボランティアの活動強化、ボランティア間及び協会との連携強化等を図るため、ボランティア研修会・交流会の開催を下記③のとおり計画しましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止としました。また、同様の理由のため、東京都と共催で下記④のとおり実施予定でした「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座も中止としました。

①ボランティアの種類及び登録者数(令和2年3月末日現在)

登録者数：334名(実人員。次の各区分では複数登録あり)

- 通訳・翻訳ボランティア：82名
- イベントスタッフボランティア：174名
- 日本語ボランティア：221名
- 国際交流サロンボランティア：11名
- 防災語学ボランティア：48名

②ボランティアの派遣・活動(令和2年3月末日現在)

ア 通訳・翻訳ボランティア及び防災語学ボランティア 延24名(保健センターにおける1歳6か月児健診など)
イ イベントスタッフボランティア 延3名(国際交流サロンにおける茶道等の講師)

③ボランティア研修会・交流会

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

日時 令和2年3月12日(木) 午後6時30分開演
会場 新富区民館
演題 外国語ができなくても大丈夫! 「やさしい日本語」でコミュニケーション力を高めよう
講師 聖心女子大学現代教養学部日本語日本文学科准教授 岩田 一成
定員 40名
参加費 無料

④「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座(東京都との共催)

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

ア セットコース(おもてなし講座+語学(英語)講座)
期日 令和2年3月17日(火)・19日(木)・23日(月)3日間(11時間30分)
定員 36名
対象 入門～初級の語学力(英語)を有する者
会場 新富区民館
参加費 無料
イ おもてなしコース(おもてなし講座)
期日 令和2年3月14日(土)(3時間30分)
定員 60名
対象 英語による簡単な日常会話ができる者

会場 日本橋公会堂集会室

参加費 無料

(7) 姉妹都市親善写真展の開催

姉妹都市サザランド市と本区との親善を一層深めるため、お互いの生活や風景、行事等を紹介する写真を交換し、その写真展を令和2年2月に日本橋区民センター1階、中央区役所1階及び月島区民センター1階で順次開催しました。

(8) 外国客船歓迎式

東京港晴海埠頭に着岸する外国客船入港時の歓迎行事に参加し、記念品を贈呈しました。

主催 東京都港湾局

一般社団法人東京都港湾振興協会

入港数 4隻(初入港)



(9) 国際交流推進事業助成

協会の目的である国際交流を振興するため、区民が主体となって行う国際交流事業に対して、事業に要する経費の一部を助成及び後援することとしました。

助成金額：当該事業の対象経費の1/2の範囲内(上限10万円)

助成及び後援件数：0件

令和元年度決算

<収入>

科目	決算額(円)	説明
事業収入	1,598,000	古典芸能鑑賞会収入、コンサート事業収入等
区補助金	104,861,000	中央区からの補助金
寄付金	0	
雑収入	270	預金利子
収入合計	106,459,270	

<支出>

科目	決算額(円)	説明
事業費	65,827,292	
文化振興費	60,464,725	機関誌の発行、コンサート、文化講座、特別文化講演会、古典芸能鑑賞会、文化推進事業助成、中央区まるごとミュージアム、文化振興プロデュースチーム
国際交流振興費	5,362,567	国際交流のつどい、国際交流サロン、日本語教室、日本語指導者養成講座、日本語ステップアップ講座、ボランティア活動支援、姉妹都市親善写真展、外国客船等の歓迎式、国際交流推進事業助成
管理費	37,792,879	
人件費	34,953,083	職員の給与
管理運営費	2,839,796	理事会、事務費
予備費	0	
合計	103,620,171	
区返還金	2,839,099	中央区補助金の精算返納
支出合計	106,459,270	

協会主催の日本語教室

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため3月は中止

①水曜日教室

日会場 毎月第1・第2・第3水曜日(8月を除く) 午後6時30分～8時 女性センター「フーケ21」
実施回数 28回
参加者数 外国人 延345名、ボランティア 延394名

②木曜日教室

日会場 毎月第1・第2・第3木曜日(8月を除く) 午前10時～11時45分 協会講習室
実施回数 28回
参加者数 外国人 延546名、ボランティア 延384名

③土曜日教室

※台風19号により10月12日(土)は中止
日時 毎月第2・第3・第4土曜日(8月は第2・第3土曜日を除く) 午前10時～正午
会場 協会講習室
実施回数 27回
参加者数 外国人 延480名、ボランティア 延539名

協会が支援する日本語教室

①ワールドフレンズ日曜にほんごクラブ

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため2月16日(日)～3月は中止
日時 毎週日曜日 午前10時～11時30分
会場 日本橋社会教育会館
実施回数 42回
参加者数 外国人 延632名、ボランティア 延287名

②日本語おたすけたい

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため3月は中止
日時 月曜日(月3回) 午後7時～8時30分
会場 日本橋社会教育会館

実施回数 30回
参加者数 外国人 延240名、ボランティア 延225名

③月島日本語倶楽部

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため3月は24日(火)以外中止
日時 毎週火曜日(8月を除く) 午前10時～11時50分
会場 月島社会教育会館
実施回数 38回
参加者数 外国人 延195名、ボランティア 延229名

④日本語コミュニケーション・パートナー

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため3月は中止
日時 火曜日(月3回) 午後7時～8時30分
会場 新富区民館
実施回数 33回
参加者数 外国人 延212名、ボランティア 延232名

⑤銀座日本語教室

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため3月は中止
日時 毎月第1・第2・第3水曜日(8月を除く) 午前10時～11時30分
会場 築地社会教育会館
実施回数 30回
参加者数 外国人 延190名、ボランティア 延208名

⑥にこにこ日本語

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため3月は中止
日時 木曜日(月3回)(8月を除く) 午後7時～8時30分
会場 佃区民館
実施回数 30回
参加者数 外国人 延631名、ボランティア 延488名

⑦にほんご生活

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため3月はオンラインで実施
日時 毎週土曜日 午後2時～3時45分
会場 築地教会別棟
実施回数 45回
参加者数 外国人 延412名、ボランティア 延266名

第13回 中央区まるごとミュージアム2020

晴れわたる秋空の11月8日(日)、「第13回中央区まるごとミュージアム2020」を開催しました。新型コロナウイルス感染症に対する感染予防対策にご協力いただきながら、今年も多くの方に中央区の歴史と文化を楽しんでいただきました。

11/8 (Sun)
9:00 ~
17:00

新型コロナ対策も万全に！(日本橋船着場)

中央区全域を大きなひとつの「ミュージアム」に見立て、街の多彩な文化と歴史に触れて楽しむ秋の恒例イベント「中央区まるごとミュージアム」を、今年も開催することができました。新型コロナウイルス感染症への不安が渦巻くなか、多くの方々のご理解とご協力を賜り実現できましたことを、まずはこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

今年は「3密(密集・密接・密閉)」を避けるため、「無料巡回バス」の運行は全面中止とし、「無料船」の運航も3つの周遊ルートに変更し、事前申込制としました。まちは「まるごとミュージアム」のトレードマークであるオレンジ色のジャンパー姿のスタッフも少なく、例年とは異なる様相となったものの、2つの新規事業を含む計36の多彩な文化イベントが実施され、中央区内外から訪れた延べ27,000人の方々に楽しんでいただきました。

新規イベントのひとつ「浜町音頭(事業者: 浜町音頭保存会) 写真①」は、明治座でお披露目されて以来90余年にわたり愛されてきた、中央区を代表する踊りです。区立築地川銀座公園を舞台に、生演奏の太鼓やお囃子のなか、たくさんの方が入れ替わり立ち替わり輪になって、朝から夕方まで「浜町音頭」「新浜町音頭」「東京音頭」など18種類もの踊りを楽しみました。

もうひとつの新規イベントは、ラベンダーや桂皮など7種類の香りをブレンドして自分だけの「香り袋」を作る「匂い香づくりワークショップ(香老舗 松栄堂 人形町店) 写真②」です。事前予約で参加した12名が、感覚を研ぎ澄まし香りの世界に没頭した雅やかなひととき。香りに関する基礎知識も学ぶことができました。

同じく事前予約イベントで、毎年大人気の「まち歩きツアー『まるごとミュージアムコース』(中央区観光協会)」は、4つのコースを実施しました。そのうち、「晴海・佃めぐりと講談体験(写真③)」コースでは、海風が気持ちいい晴海エリアや江戸の町人たちの息づかいが感じられる佃島を散策。

昔の写真やツアーガイドの幼い頃の記憶と重ね合わせながら区内をめぐり、最後は薬研堀不動院で講談を楽しみました。

異国のムードが漂う鏡張りの真新しいスタジオで行われたのは「情熱のフラメンコ! (石井智子フラメンコスタジオ) 写真④」。観客には小さなお子さんも多く、老若男女が情熱的な踊りと音楽に目を奪われました。

日本橋、京橋、銀座へと向かう直線コースで最初に向かったのはクイズシートを片手に日本橋周辺を散策しながら謎を解く「謎解き日本橋めぐり(日本橋地域ネットワーク100年計画委員会) 写真⑤」。昨今のクイズブームもあって、正解者に用意されていた300個の記念品が早々になくなってしまふほどの大盛況でした。

「けん玉のイベント(中央区観光情報センター) 写真⑥」では、その場でけん玉の級位認定を受けることができたので、たくさんのお子様もけん玉の技に挑戦しました。けん玉レッスンやけん玉クイズなども楽しめました。

1932年(昭和7年)に建てられた銀座初の鉄筋高級アパートの一室では「銀座奥野ビル306号室プロジェクト 発足10年記念企画展(銀座奥野ビル306号室プロジェクト) 写真⑦」を開催。区の貴重な建築遺産でもある奥野ビルの味わい深さを堪能できました。

壮観だったのは、区内の老舗の逸品やお祭り半纏などが一堂に集まった「中央区まちかど展示館(中央区まちかど展示館運営協議会) 写真⑧」のイベントです。江戸時代からこの地に続く老舗の伝統、粋な装いを目の当たりにし、まちの歴史と誇りを感じることができました。

伝統と革新に満ちた中央区の魅力が凝縮された「まるごとミュージアム」。コロナ禍のなか、ご参加いただきました皆さま、ご協力を賜りました多くの関係者の皆さま、ご協賛各社さまに対し、改めて厚く御礼申し上げます。来年もまた、笑顔で集えることを願っています。



①やはり盆踊りはいいですね(築地)



②よい香りがたちこめる中のワークショップ(人形町)



③東京オリンピック選手村予定地の見学(晴海)



④スペインの情熱のフラメンコショーを楽しみました(日本橋本町)



⑤謎解き日本橋めぐりのスタッフの皆さん(日本橋)



⑥大人も子どもも一生懸命にけん玉に熱中(京橋)



⑦昭和にタイムスリップしたような不思議な感覚(銀座)



⑧「まちかど展示館」では中央区が誇る文化を見ることができました(銀座)

表紙 「銀座6-8交詢社」 小川 幸治

交詢社ビルディングは、1880年(明治13年)に福沢諭吉が設立した日本初の社交倶楽部「交詢社」のクラブハウスとして、1929年(昭和4年)に竣工した(表紙絵の建物)。建物外観にはアールデコのデザインがとり入れられて、品格があった。玄関に一歩足を踏み入れた時、靴を磨いてきたらどうかと心配になった。一方、東側の3階には美しい半円形の出窓があり、1階は友人たちと気楽に飲めるビアホールがあった。シャレた銀座の街はゆっくりと歩きたい。なお、現在の建物は、2004年(平成16年)に竣工した3代目のもので、以前のビル正面の外壁や内装材の一部が保存されている。

特集は、1934年(昭和9年)創業の「銀座かなめ屋」三代目店主の柴田光治氏に本年9月に開催した文化講座「まちかど展示館に学ぶ『人に話したくなる! 中央区の歴史文化と技』」の中で、「江戸べっ甲と粋な和装小物の魅力」と題して講演をお願いしたところ大変好評でしたので、講演に関連した内容でご寄稿いただきました。みんなをつなぐ「やさしい日本語」は、新型感染症の流行で日本語教室を休止したことに伴い、日本語ボランティアを対象に6~7月に開催したオンライン講座の中で、明海大学西川寛之准教授からの「やさしい日本語」のお話が大変好評でしたので、講義内容を充実させてご寄稿いただきました。13回目を迎えた「まるごとミュージアム2020」は、新型コロナウイルス感染症の予防対策に万全を期して11月8日(日)に開催し、新規2事業を含む36の多彩なイベントが繰り広げられ、延べ27,000人の方に中央区の文化的な魅力を満喫していただきました。